

2019年度AO選抜 映像学部
「プレゼンテーション方式（映像撮影型、絵コンテ作画型）」

【選考講評】

1. 実施状況

入試趣旨、志願者数、合格者数等

映像を多面的に考察または表現できる能力に優れ、映像関連分野で活躍することに強い意欲を持つ学生を受け入れるため、出願書類の審査による第一次選考と、映像撮影型および絵コンテ作画型という2種類の型を採用した第二次選考により、評価をおこないました。

本年度、志願者数は88名（映像撮影型59名、絵コンテ作画型29名）、最終合格者数は20名（映像撮影型13名、絵コンテ作画型7名）でした。

入試方式・試験型	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
プレゼンテーション方式 ／映像撮影型	59	27	13
プレゼンテーション方式 ／絵コンテ作画型	29	15	7
学部計	88	42	20

2. 試験内容

(1) 第一次選考

第一次選考は2種類の出願書類によって構成されています。1点目は自身が成長したと思うこれまでの経験について具体的に記入する欄、今後どのように成長したいかを記入する欄、映像学部でどのように成長したいかを記入する欄の3項目からなるエントリーシートです。2点目は指示する設定をもとに指定した文字数以内で物語を創作する課題文章です。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、与えられたテーマを表現する写真を撮影し、それらを順番に並べて（枚数指定）作品を制作し、その解説文章を作成しました。

絵コンテ作画型では、与えられた課題に対して、絵コンテと説明文を作成しました。

その後、両試験型とも、創作物を用いた口頭形式によるプレゼンテーションおよび質疑応答、出願書類の内容に関する面接をおこないました。

3. 出題意図

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、自身が成長したと思うこれまでの経験、今後どのように成長したいか、理想的な成長を果たすために映像学部でどのような学びを受けたいかを問うことで、過去の経験の多様性と成長力、将来像の明確性、そこへ繋がる映像学部での学びへの意欲等を評価することを意図しました。

課題文章では、設問の理解力、物語の構成力や構想力、並びに日本語文章表現力を評価することを意図しました。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、個々の写真の撮影技術だけではなく、複数の写真で作品を構成することにより「映像で表現する力」を発揮しているかを重視し、また解説文章からは、作品タイトルと解説文章から見る独創性・論理性・創造性を評価することを意図しました。

絵コンテ作画型では、制作物において、絵コンテによって、映像をイメージさせる表現力がいかに発揮されているかを重視し、説明文において論理性を評価することを意図しました。

4. 評価のポイント

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、過去の経験と将来像に結びつきがあるか、これらの将来像に近づくために映像学部で具体的に学びをどのように習得しようと計画しているのか、またそれらを実現することに対する意欲を評価しました。課題文章では、指示する設定に対する理解力と、物語を創作する上での視点、ストーリーやテーマ性、タイトル等に、優れた構想力と構成力、並びに文章表現力があるかを評価しました。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、課題の内容が正確に把握され、テーマを表現する構成になっているか、独自の視点を持っているか、効果的な撮影がなされているかなどを評価しました。また解説文章からは表現力、課題の内容把握と理解、文章表現力等を評価しました。

絵コンテ作画型では、作成された絵コンテと説明文について、課題文の内容が正確に把握されているか、絵コンテに対する説明に論理性があるか評価しました。絵コンテに対しては、表現しようとする状況を適切に可視化しているか、物語全体が的確に構成され、効果的な構図が作成・描写されているかを評価しました。

両試験型とも、プレゼンテーションおよび面接においては、時間内に意見がまとめられ、自身の考えを表現し、質疑に対する的確に応答でき、本学で学ぶ意欲について筋立てて説明できるかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、過去の経験とそこから得た成長を具体的に記述し、それを踏まえて将来像が明確になっており、映像学部での学びの記述までに一貫性を感じることができるものが多く見られました。一方で、過去の経験や映像学部での学びが具体的に記述されていないものや、過去の経験と将来像、映像学部での学びに関連性を感じることができないものもありました。課題文章では、物語の構成やテーマ性に関し、自身が持つ独自の発想を優れた構成力と構想力で的確に表現できたものが見られました。一方で、話の筋が分かりにくいものや、起承転結がはっきりしないなど物語構成が不明瞭なもの、提示されたオリジナルのストーリーに少しだけ手を加えただけといったような独自の工夫がなされていないものも見受けられました。また一部、課題設定に沿わずに、自身のオリジナルストーリーを書いたものもありました。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、受験生全員が試験の内容を理解し、時間内に作品を完成することができました。撮影場所では、学生各々がテーマについて考え、限られた時間内で工夫して撮影する姿を垣間見ることができました。撮影の際には構図、カメラポジションなどを工夫したり、撮影可能領域内にある物を取り込んだり、構成上において効果的な写真を撮影しようとする工夫などがされていました。また 1 枚の写真で明確にテーマを表そうとする作品や、複数の写真構成によってはじめてテーマを感じ取れる作品、テーマに対して自身の意図を表現する作品などが見られました。一方で、作品からはテーマを感じることができず、解説文章で補足しても意図が明確で無いものや、写真を順番に並べる表現を有効に活かせなかったもの、タイトルが表層的で独創性が弱かったものも見られました。加えて作品として使用する写真を選別できていない事例も見られました。

絵コンテ作画型では、受験生全員が時間内に絵コンテと説明文を書き上げることができていました。起承転結の明確なストーリーで効果的な構図とその変化に工夫を凝らした解答や、題材から大きく発想を展開させ独創性の高いストーリーの解答も見られました。一方で、課題として与えられた題材や小道具について十分に考慮しきれなかった解答も見られました。

両試験型ともプレゼンテーションおよび面接においては、自らの創作物について、限られた時間内に自らの言葉で説明できていたケースが多く見られました。一方で、どのような意図や表現手法を用いたのかを明確に説得力を持って説明することができない、自分の将来に対するビジョンをはっきりと示せない、面接官の質問に対する応答の的確性を欠く、または積極性・主体性を感じることができない受験生もいました。

6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、まず過去の経験を振り返り、今の自分や未来の自分へと繋がる「成長」を見つけ出してください。その成長の先にある将来像や、そこに向かう為に映像学部で何を学びたいのか具体的に考えてください。課題文章では、起承転結などをはじめとした基本的な物語の構成や構造について学び、どのような登場人物が、どのような行動をすれば、何が伝わるのかを、日常で触れる映像作品などを通して考察してください。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、常日頃から、多様なジャンルの映像作品を、そこで活用される映像技法に注目しながら鑑賞してください。身近な撮影機器で撮影をおこなう際に、どのように撮影すればどんな効果が得られるのか、また複数の映像を構成することで何が伝えられるのかを考察してください。物事を色々な角度から観察する力や視覚的な工夫を行おうとする力も重要でしょう。また映像だけでなく広く芸術作品に触れて創造性を養ってください。

絵コンテ作画型では、日常的に、多様なジャンルの映像作品を鑑賞し、身の回りのものをはじめとした様々な題材に対してその特徴を捉え、簡潔にその内容を他人へ伝達する作画力などを育む必要があります。物事を多面的に観察する力や視覚的な工夫を行おうとする力も重要です。また広く芸術作品に出会い創造性の幅を広げてください。

両試験型ともプレゼンテーションおよび面接においては、自身の考えを分かりやすく伝えることができるようにしてください。

7. 進学指導上の留意点（高校教員向けのAO入試指導上のポイント）

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、過去の経験と将来像、映像学部での学びの関連性が強い方が説得力を増します。さらに、自身の言葉でより具体的に記述することが求められます。課題文章では、まず創意工夫をもちながら何らかの独創性を感じる物語を創造する力を身につける必要があります。さらに、物語を表現できる日本語文章力を身につける必要があります。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、基礎的な撮影でどのような映像が生み出せるか、また複数の映像を構成することによって、何かを伝えたり、世界観を構築したりする訓練が必要となります。また作品のタイトルを付ける能力や、作品を解説できる論理性や説得性を身につける必要があります。

絵コンテ作画型では、課題文の内容を正確に把握し、その特徴から発想を広げる力を身につける必要があります。また、表現力として、状況や意図を適切に可視化し、効果的な構図を作成・描写する訓練も必要となります。さらに、文章によって絵コンテを的確に説明する論理的な思考と文章力も必要です。

上記、2種類の型において、時間内に意見をまとめながら自身の考えを表現する要約力と質疑に対する的確な応答力の養成、また、本学で学ぶ意欲の積極的な表現をご指導ください。

以上